

# いじめをさせない、見逃さない

いじめは、子どもたちにとって最も身近な人権侵害です。私たち大人が毅然とした態度で問題に取り組み、子どもたちとの信頼関係を築くこと、そして「いじめ」に苦しむ心情を自分のこととして重く受け止めることが大切です。

## いじめとは？

- 冷やかしゃやからかい
- 悪口や脅し文句
- 仲間はずれや集団による無視
- 叩かれたり、蹴られたりする
- 金品をたかられる
- 物を隠される、盗まれる
- 物を壊される、捨てられる
- 嫌なこと、恥ずかしいことをさせられる
- 危険なことをさせられる
- ネット上で誹謗中傷される など



児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

### 保護者のみなさんへ

- 親子の絆や信頼関係を深める中で他者への思いやりや生命の大切さを教えましょう。
- 子どもに対し、いつでも、いじめの加害者にも被害者にもなり得ることを意識させ、いじめに加担したり、見て見ぬふりをしたりしないよう指導しましょう。
- いじめに関する被害や悩みなどがある場合は、迷わず周囲の大人や先生、友だちに相談するように働きかけましょう。
- いじめを発見した場合や子どもからいじめに関する相談を受けたときには、速やかに学校や関係機関に連絡しましょう。

### 地域のみなさんへ

- いじめは全ての大人たちの問題であるにとらえ、学校、保護者と協力して、いじめの防止に一丸となって取り組みましょう。
- 豊かな人間関係を育むための地域行事やイベント等に、子どもが自主的に参加できるような環境づくりに努めましょう。
- 地域でいじめを発見した場合や子どもからいじめに関する相談を受けたときには、速やかに学校や保護者、関係機関に連絡しましょう。



# 「もしかしたら?…」と思ったら

学年が上がるにつれ、家族よりも友達や一人でいる時間が増えるのは、健全な成長といえます。しかし、家族と過ごし会話をする時間はとても大切です。

いじめに気がついたら積極的に関わり、子どもたちの気持ちに寄り添った対応をしましょう。

## いじめられている場合

- 変化に気づいたら、子どもの話を聞きましょう。
- 心の痛みを十分に聞きましょう。
- 絶対にあなたを守るという姿勢を伝えましょう。
- どう解決していこうかを一緒に考えましょう。
- 小さな変化でも学校に伝え、連携しましょう。
- 犯罪性が感じられるときは警察等の関係機関に相談しましょう。

## いじている場合

- 毅然とした態度で接しましょう。
- 相手にどんな思いをさせているのかを気づかせましょう。
- 本人の悩みやいらだちなどにも目を向けましょう。
- 不安定な状態を取り除けるように一緒に考えましょう。
- 学校と協力して子どもたちの様子を見守りましょう。

## いじめを知っている場合

- 勇気をもって話してくれたことをまず認めましょう。
- いじめられることがどれほど苦痛でつらいことかに気づかせましょう。
- 「面白い」「見て見ぬふりをする」「止めない」ことも「いじめ」につながっていることを気づかせましょう。
- どうすればよかったのか、これからどうすればよいのかを一緒に考えましょう。

「いじめられている子」「いじている子」「いじめを知っている子」どの子どもも保護者が協力して育てるという姿勢をもちましょう。

# 家庭・地域における「いじめ」予防

## 保護者同士の関係をつくる

- 学校行事やPTA行事に積極的に参加して、親同士の関係を密にすることが必要です。



## 地域の行事に参加する

- 共通の活動をとおして、子ども同士の横の関係を広げたり、共感的理解を深め親子関係を親密にしたり、地域の大人との関わりを広げたりすることにより、人間性や社会性を育みます。



## 情報端末機器の使い方を考える

- 情報端末機器（携帯電話、スマートフォン、携帯ゲーム機、携帯音楽プレーヤー等）ではメールや無料通信アプリ等を使ったコミュニケーションが図れます。しかし、不適切な使い方トラブルに巻き込まれたり、相手を傷つけたりする可能性があります。

困ったことがあったら気軽に相談できるよう普段から何でも話せる温かい家庭の雰囲気を作ることが大切です。



実社会もネット社会も相手の気持ちに気づくコミュニケーション能力が大切です。

# 「いじめ」は当事者だけの問題ではありません

いじめはいじめる側（加害者）といじめられる側（被害者）という二者関係だけでは成立しません。下図に示したとおり、周りにはやしたてたり面白がったりする存在（観衆）と、周辺で黙って見守っている存在（傍観者）を含めた四層構造の中で発生するものです。

また、子どもたちの間にはさまざまな人間関係がありますので、この構造の中で、いじめが同時に多発的に起こる場合もあります。

いじめの構造（いじめの四層構造）（森田洋司氏による）



## 子どものサイン（変化）に気づいていますか？

### 家庭で気をつけるポイント

いじめの被害者はいじめられていることを言えないことが多い

- 家の人に心配をかけたくない
- いじめられていることを認めたくない
- いじめられたことを言ったことが分かった、さらにいじめられる心配がある

いじめの加害者は、いじめと認識せず、からかいやいたずらなどを遊び半分で行う

- 被害者が平気そうなので大丈夫
- 悪いのは自分だけではない
- これくらいのことは許される

### 子どもの出すサイン

- あいさつをしても返事が返ってこなくなった。
- 家族との対話を避けるようになった。
- 学校や友だちのことを話さなくなった。
- 登校時に身体の不調を訴えるようになった。
- 食欲不振、不眠を訴えるようになった。
- 使い道の不明なお金を欲しがるようになった。
- 電話やメールをととても気にするようになった。
- 持ち物がなくなったり、壊れたりするようになった。

- 「キモイ」、「ウザイ」などの言葉が増え、言葉遣いが荒くなった。
- 買いつけていない物を持っている。
- 与えた以上のお金を持っている。
- ひんぱんに電話をかけたり、メールを送信したりして、その後外出するようになった。
- 自己弁護することが多くなった。

すぐに学校に相談

「あれ？」  
もしかしてと  
思ったら

# 親子で話そう!

## 「ネットで起こっているいじめ」の特徴



## 安全なケータイ&スマホの利用のために



### 家庭内ルール例

- 夜( )時を過ぎたら使わない。
- 自分の部屋へは持ち込まない。
- 勉強や食事の時は使わない。
- 悪口や人のいやがること、個人情報を書き込まない。
- 困ったときは、保護者に相談する。
- ルール違反をしたときは、使用を停止する。

### 子どもにケータイ・スマホを持たせる必要があるならば、保護者の責任として

- なぜ情報端末機器を持つのかを子どもと話し合い、持つ目的をはっきりさせましょう。
- なぜ、ルールが必要なのかを子どもと話し合い、一緒にルールを作りましょう。
- 子どもと一緒に、ネット社会の危険について話し合いましょう。
- 保護者がネット社会を学ぶとともに、その責任を自覚しましょう。
- 保護者は、子どもの変化(SOS)を見逃さないようにしましょう。
- 必ずフィルタリングサービスを利用しましょう。

(コミュニティサイトに起因する被害児童生徒の95.2%がフィルタリング未加入:平成26年上半年警察庁調査)